

特集

キラリと光る
誇り高いまちに

町長新春インタビュー

— 2023年を振り返って —

— 山添町長にとって2023年はどんな一年でしたか。

令和5年度は、ポストコロナ社会を町民の皆さまとともに作っていきたいという考えから、「ともに創る」という町政方針を掲げています。そのような中で、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、2類から5類になったことは大きな転機でした。その後、皆さまの社会的・経済的な活動をこれまで以上に感じ取ることができ、多くの勇気と感動をいただきました。

また、子どもさんからお年寄りの方にかけて対話を繰り返すことができた一年でもありました。この対話をつうじてさまざまなご意見や提言、そして思いを受け止めることができたことは、わたしや役場として大切なことだったと感じています。

もたちにとって、重要な学校での食事を安定的に提供していくために、センターの建設は、必要不可欠だと考えています。

場所は、旧岩屋小学校の校舎跡地としており、今年度は同校の解体に関する予算について承認いただいています。今後も議員の皆さんにいていねいな説明を重ねながら、センターの整備に関する予算を計上していきたいと考えています。

— 昨年10月に実証運行を開始した「よさの乗合交通」についてお聞かせください。

町民の皆さまの移動を支える新たな公共交通の確立に向けて、昨年の10月2日に与謝野町予約型乗合交通



よさの乗合交通のロゴマーク

— 昨年8月に、町の直接運営で再開したクアハウス岩滝についての考えをお聞かせください。

クアハウス岩滝は、町民の皆さまのご協力をいただき与謝野町の直営施設として、昨年の8月から新たなスタートを切りました。この間、町民の皆さまにご不便をおかけすることもあったと思いますが、多くの方々にご活用いただいています。本施設が安定的に稼働することによって、町民の皆さまの健康増進をしっかりと支えたいという思いで、夏休みや長期の休暇を利用して観光で訪れられる方々の憩いの場になっていくと考えています。

町の直接運営での再開にあたっては、一年の動きをしっかりと見ていくことに加え、安定的に施設運営を行っていくために、収支バランスを

「よさの乗合交通」の実証運行を開始しました。特に、地域の皆さまが支え合って交通手段を提供していくという動きが生まれたことは、大変素晴らしいことだと思っています。

しかし、地域公共交通を取り巻く状況は大変厳しく、公共交通を支える事業者の皆さまにおいても、「担い手の確保」が困難だったり、予算措置が難しくなってきました。このような状況の中、地域総がかりで地域の力を結集し、持続可能な公共交通を確立していきたいと考えています。

— 町の施策を進めるには財源が必要ですが、現在の財政状況についてお聞かせください。

さまざまな事業の推進、組織を適正に運営していく中で重要なことは、財政の健全な状態を維持していくことです。与謝野町の財政構造は、一般会計に占める自主財源比率が30%に満たない状況で、70%以上が依存財源となっています。そういう意味では、非常に厳しい財政構造が合併以後から続いており、この状況はしばらく続いていくと考えています。

取っていくことも重要です。このような観点をもちながら、年度末にかけて調整を行っていく段階に入っていると考えています。

— 野田川地域の認定こども園新園舎建設について、現状や考えなどについてお聞かせください。

野田川地域の認定こども園新園舎整備に関する方針については、石川保育所およびその周辺の土地を軸にして、整備計画を取りまとめたいと考えています。この方針を昨年の9月定例会の一般質問でお答えして以降、野田川地域の区長会や保護者の皆さま、地域の皆さまに説明を重ねてきました。

また、この方針の説明をとおして、さまざまな提案もいただいています。特に現在、野田川地域のこども園や保育所にお子さんを通わせておられる保護者の皆さまや、子育て支援センターを利用している皆さまにおいては、新園舎整備に関する期待が非常に大きいものがあると受けとめています。新園舎整備に関する説明を重ねていく中で、

令和4年度の与謝野町の決算において、4つの財政健全化判断比率の一つであります「実質公債費比率（※）」が、北海道夕張市の67・4%に次いで17・2%となり、全国ワースト2となりました。この報道を通じて、町民の皆さまにご不安をおかけし、お詫びを申し上げます。実質公債費比率の抑制については、町ホームページや有線テレビで町の財政状況をご説明させていただきました。この間、財政計画に基づく起債（借金）の抑制や繰上償還などをすでに実施しており、令和5年度決算をピークに、令和6年度決算から緩やかに減少していく見込みとしております。

こうした中、本町では、学校給食センターと野田川地域における認定こども園の2つの大規模施設整備を予定しています。いずれの施設も子どもたちの教育・保育環境の充実のために、必要不可欠な施設整備であると考えています。この施設整備については、必要に応じて基金（貯金）を有効に活用し、財政計画を大きく逸脱しない範囲で有利な起債を発行することで、2つの施設整備を実施したとしても、実質公債費比率は令和6年度決算から緩やかに減少する



この園舎をより良いものにしてほしいとの意見をいただくだけではなく、与謝野町の子育て政策の充実に対するご意見をいただく場面も多々ありました。野田川地域の認定こども園の整備計画をしっかりとまとめながら、一人でも多くの皆さまにご理解いただき、整備を進めていくことができると考えています。

— 学校給食センター（以下、「センター」）建設の現状やお考えについてお聞かせください。

センターの供用開始から40年以上が経過する中、現在の設備は、学校衛生基準にも適合していない状況です。また、センターで働いておられる方々から、さまざまな不具合が生じているという話を一年をとおして聞いています。子ども

見込みです。町といたしましては、財政健全化と必要な施設整備に対する投資について両立できるものと考えていますので、町民の皆さまのご理解とご協力をよろしく願っています。

— 最後に、町長から町民の皆さまにメッセージをお願いします。

令和6年の新春を迎えて、改めて町民の皆さまとともに、将来にわたって「キラリと光る誇り高いまち」を作りたいと考えています。そのためには、これまで以上に町民の皆さまの町政への参画、そして行政との対話にご参加をお願いします。

現在、与謝野町を巡る状況は少子化や高齢化、そして行財政改革を進めていく中でさまざまな課題を抱えています。この課題に取り組んでいくために必要なことは「対話」です。町といたしましては、これまで以上に町民の皆さまとの対話の機会を組織をあげて作ってまいります。

結びに、令和6年が町民の皆さまにとってより良い年となるよう、与謝野町役場をあげてお支えを申し上げますとともに、ぜひ一緒にまちづくりを行ってまいりましょう。

※ 会計に占める毎年度返済しなければならないお金の割合。3カ年平均で算出。